

「家族の夢」

瀬娃町御領

高江広人

私たち高江家では、焼酎用のさつまいもを中心に、長男・次男と家族四人で頑張っています。

この4月から次男が加わり、機械の修理等を担当することになりました。長男は土づくりが大事と土質の調査に余念がありません。二人の会話には驚くことが多く、とても頼もしく力強さを感じています。

このところ基腐病が蔓延し、さつまいもは危機的状況にあります。これからの同じ

ように続けられるのか、新しい作物に転換すべきか、一息のお茶の時間にも家族会議は続きます。

二人の後継者とその家族の生活を維持するためには、一年を通し安定した作物の生産が必要となります。自分たちはただ作ることだけに追われる毎日でしたが、息子たちにはそれぞれに家族が有り未来があります。生活安定のためには、新しい機械導入による作業効率の向上や作業時間の短縮、面積拡大と新しい作物の導入等による、所得の向上を図る必要があります。

これまで南九州市を支えてきた、特産品であるさつまいもを作り続けられるよう研究

し、取り組む必要性を強く感じています。農業をやりたい、続けたい、南九州市を盛り上げたいと頑張る息子たちの夢を家族の夢として、続けられるようお願いところです。



議会だより第55号の訂正とお詫び

令和3年8月5日発行の南九州市議会だより第55号12ページ吉永賢三議員の一般質問における市長答弁において、各医療機関の1週間あたりの接種可能数「2,300人程度」を「300人程度」と誤って記載しておりました。訂正して深くお詫びいたします。

編集後記

知覧町の企業で働くマレーシアの彼を、久しぶりに訪ねた。家族5人で住んでいたが、奥さんの都合で子供たちも一緒に帰国し、現在彼は一人暮らし。家族も早い時期にまた日本に来るはずであったが、コロナの影響で計画はストップ。

家族に逢いたい寂しい日が続く。日本での生活も十三年。流暢な日本語で頑張っている彼が、「長男が中学生、一緒に暮らし、お父さんらしいことをしたい。家族と一緒に住むのが一番。」としみじみ語る。どうか家族で仲良く過ごせる日が一日も早く来ますように・・・。

(内園)

▼広報編集委員会

委員長 米満 孝二
副委員長 内園知恵子
委員 西山 一
取違 博文
上赤 秀人
山下つきみ